

資料番号	20010721
差出人	財団法人 骨髓移植推進財団 ドナー安全委員会
受取人	(財) 骨髓移植推進財団 認定施設連絡責任医師 各位
採取方法	骨髓採取
通知区分	安全情報
事例分類	自己血

タイトル	健診後、自己血貯血が不可能なため採取中止となった事例
本文	<p>ドナーデータ：年齢：20 歳代 性別：女性&lt;経過&gt;確認検査時：異常所見認めず術前健診時：異常所見認めず自己血採取①：採取施設で自己血採血するも、50cc 程で採血できない状況となる。自己血採取②：日赤にて、自己血採血するも、全く採血できなかった。採取量等の変更を含め検討採取量は、450ml 位となると移植施設に報告※当初採取予定量 750ml (Pt 標準量 825ml) 移植施設より、検討した結果本ドナーではコーディネートは勧めないとの連絡あり。【地区代表協力医師の見解】①2 回とも「固まってしまった」とのことで、今までとは異なった反応が出ているのではないかと考えられる。②採取開始後に問題が起こる場合も考えられる。④採取量は 450ml 位となる。</p>

別紙タイトル	採取中止となった事例
別紙本文 1	<p>【担当地区代表協力医師の見解】「腰を打っていることを考えると、臍帯血等を考慮すべきでは。採取後、何かあった場合、どちらに原因があるかわからなくなる。」状況確認 採取担当医より。・傷はあるが骨折はない。・救急対応施設で撮ったフィルムも確認したが問題ない。ただし、右前腸骨陵に打撲創あり。骨には問題なし。・本日、入院（ドナーは中止もありうることは了解済み）入院の目的は創部の状態、発熱、CRP などが確認できること。・感染予防の観点で抗生物質の点滴を開始した。・（本日の評価においては）予定どおり 3 日の採取は可能と考える。麻酔科も了解している。</p>

## 別紙本文2

赤ちゃんが産まれたあと、胎盤がお母さんの体内に残っている間にさい帯血を採取します。採取には専用のバッグを使用し、さい帯表面の血管に針を刺して行います。さい帯の表面は、針を刺しても痛みを感じることはありません。採取は2～3分程度で終了し、数分後にお母さんの体外に胎盤が娩出されます。したがって、分娩の経過には影響がありません。

SAMPLE